

## 特集：女性労働

### 【女性労働】

有名な女性管理職が、女性が活躍している代表として、マスメディア等で取り上げられる一方、非正規で働く女性が増加をしています。よく言えば多様な働き方と多様な選択肢が用意されて、何を選択するかによって、生活環境は大きく変わります。女性労働について書かれている書籍を当コーナーより一部を選んで紹介します。女性労働の現状、女性労働の歴史、女性労働が置かれている環境や環境を向上させる方法、さらに統計などについて書かれた書籍です。どうぞ労働情報コーナーにお立ち寄りください。



### 【書籍の紹介】

#### ★なぜ女性管理職は少ないのか —女性の昇進を妨げる要因を考える— 大沢 真知子 【編著】

日本女子大学現代女性キャリア研究所 【編】 青弓社 (2019.8) 366.21/773

女性が管理職になれない、なりたがらない要因とは何か…男性中心のリーダーシップ像や女性が抱える心理的な葛藤、職場に根強い差別などをインタビューや統計から明らかにして、公正な評価制度や新たなリーダーシップ像の確立を訴えます。国際的に見てもジェンダー格差の大きい国である日本、それが、日本経済発展の阻害要因とも指摘されています。開催されたシンポジウムをもとに展開された新たな章を加えます。男性も女性も仕事と家事を行う社会の役割革命などにも言及します。

#### ★女性労働の日本史 —古代から現代まで— 総合女性史学会 【編】

勉誠出版 (2019.3) 366.21/774

古代から現代までの女性労働の在り方や実態を描き出し、各時代における女性労働の特質を明らかにします。それはまた、女性労働を通して、それぞれの時代を捉えようとする試みでもあります。身分や階級の差、都市や農山漁村などの地域による相異、様々な職種に注目しながら、女性労働と関わる男性の労働にも目を向けています。娘・嫁・妻・母・祖母といった女性のライフコースに即した労働の変化についても留意します。

#### ★「労働」から学ぶジェンダー論 —Society5.0でのライフスタイルを考える—

乙部 由子 ミネルヴァ書房 (2020.6) 366.21/776

男女雇用機会均等法の施行から30余年の歳月が過ぎ、働き方改革の一環として労働基準法等の改正も行われ、ワーク・ライフ・バランスが実現しやすいように、改めて労働環境が整備されています。昨今は、情報通信技術や人工知能技術の発展により、仕事の喪失や失業の危機を感じる人も増えています。特に非正規で働くことの多い情勢はどうなるのでしょうか。このような社会状況を踏まえ、ジェンダー、男女共同参画社会、家族、キャリア、産業社会、労働など、労働現場でのジェンダー問題を考えていきます。



## ★女性が共に、さらに輝くということ ザ・ドリーム・コレクティブ

幻冬舎メディアコンサルティング (2020.3) 366.21/779

世界的にも影響力を持つ、ブランドのリーダーにインタビューを行い、あらゆる分野で女性が輝き、成功し、リーダーシップを発揮できる環境を作り上げる手腕を聞き出します。登場する企業のビジネスは、多岐にわたり、各リーダーが歩んできた人生そのものです。日本のジェンダーギャップをなくすためにも登場するリーダーの声に傾けてみましょう。アディダス・ジャパン、モエ ヘナシー・ルイ ヴィトン・ジャパン、サントリーなど。

## ★中小企業がイキイキ輝く!女性活躍推進法一般事業主行動計画課題別策定ガイド

島 麻衣子 第一法規 (2020.3) 366.21/781

一般事業主行動計画とは、企業は自社の女性活躍に関する状況把握、課題分析を行い、その結果を踏まえた行動計画の策定、目標を達成するための具体的な取組内容をまとめたものです。平成4年4月からは、101人以上300人以下の企業でも、この行動計画の策定が義務化されました。少子高齢化が急速に進む日本では、女性活躍推進は福利厚生ではなく、企業の人材戦略のひとつです。その一般事業主行動計画の策定を手助けします。

## ★女性がオフィスで輝くための12カ条 —#MeToo時代の新しい働き方—

ジョアン・リップマン 金井真弓【訳】 文藝春秋 (2020.3) 366.21/783

女性が職場で最もよく直面する問題…会議で無視される、過小評価される、自分の功績を男性に横取りされるなど、「男女平等」とは離れた世界を経験してきた女性の会議で、職場で女性が輝くための方策を紹介します。女性に対する無意識な偏見から解放させて、是正する試みです。女性が職場で輝くためにはどうするのか、心理学、脳科学、データサイエンスの先天的な知見を盛り込み紹介します。

## ★女性労働研究 第64号 「働き方改革」を超える —ジェンダー平等に指針を定めて—

女性労働問題研究会【編】 すいれん舎 (2020.3) 366.21/623/5

女性労働を研究する団体が、2019年の女性労働セミナーにおける講演を中心に、会員からの論文を含めてまとめた論文集です。セミナーは、その時期において旬の話題で開催しています。2019年は、国際潮流であるジェンダー主流化に逆らい、国家戦略としての「働き方改革」を取り上げ、これまでにない犠牲を女性労働者に強いていると警鐘を鳴らしています。また、この一年の女性労働の年鑑としての側面もあります。

## ★女性活躍と両立支援に関する調査 労働政策研究・研修機構【編】

(JILPT 調査シリーズ no.196) 労働政策研究・研修機構 (2020.3) 366.21/784

2016年に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」に基づき、企業のこの法律に対する「一般事業主行動計画」作成にどのように理解を進め、作成をしているのかを2019年の改正を経て調査しました。調査の結果、大企業や中小企業などにより、女性の活躍には4つのグループに分かれ、産業により隔たりがあることを示しています。

## ★女性労働の分析 2018年 21世紀職業財団【編】 21世紀職業財団 (2019.10) 366.21/3/48

本号は、厚生労働省が取りまとめた「働く女性の実情」に21世紀職業財団が、作成した女性労働に関する最新の裁判を含めた事例を巻末に収録しています。平成30年の働く女性の状況の特徴を明らかにした、厚生労働省の対策もまとめてあります。特に前年の特集で取り上げた「女性化活躍推進法」の改正や施策状況も記述しており、巻末の裁判例は、賃金、昇格、退職、定年制など項目ごとにまとめています。